

2012年8月30日  
日本経営倫理学会  
常任理事 水尾順一

## 日本経営倫理学会 20周年記念出版事業

日本経営倫理学会・(社)経営倫理実践研究センター両 CSR 部会合同企画

### 『安全・安心、絆の経営：CSR と人権・労働(案)』

#### 1. 背景

ISO26000 の社会的責任の規格が 2010 年 11 月から発行された。

SR の領域は経済・環境・社会のトリプルボトムラインとなるが、日本の現状を鑑みた時、次の3つが重要課題となっている。すなわち、

- ① 消費者に対する安全・安心の「コンプライアンス」の領域、
- ② リオ+20 の開催で地球温暖化を中心としたグリーンエコノミーの促進
- ③ 日本組織で取り組みの遅れが目立つといわれるハラスメントやワーク・ライフ・バランス、メンタルヘルス、男女共同参画の問題など「人権と労働」の領域である。

中でも日本企業が欧米企業に比較し、最も遅れているといわれる③の人権と労働は喫緊の課題である。

特に、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響もあり、安全・安心な街づくりなども新たな課題となっている。

については、当 CSR 研究部会では ISO26000 の規格を踏まえて、以下の『安全・安心、絆の経営：CSR と人権・労働(案)』本について以下の要領で出版を企画する。

2. スケジュール 2012 年 12 月末脱稿、 2013 年 3 月出版(予定)

3. 編著 田中宏司・水尾順一

編集協力：BERC 手島専務理事、経営倫理学会・BERC の CSR 部会共同執筆

4. 書式 四六版ハードカバー、縦書き、230 ページ前後

5. 読書対象者：企業人、一般市民、学生などの幅広い層を対象とする。

6. 構成(案)：次葉参照

(以下余白)

目次	執筆者
序章 世界の持続可能な発展を支える人権・労働	田中宏司
1 節 ISO26000 で人権と労働がクローズアップされた	
2 節 人権と労働に求められる「デュー・ディリジェンス」	
1 章 地域社会と人を守る「安全・安心、絆の経営」	
1 節 地域コミュニティと安全・安心、絆の経営	清水正道
2 節 住まいの安全・安心、心の癒し	明石雅史
3 節 景観から考える安全・安心なまちづくり	斉藤(全)
2 章 従業員満足を高める楽しい働きやすい職場環境	
1 節 ハラスメントは時代の遺物	加藤美香保
2 節 お互いに思いやる姿勢が大切	加藤美香保
3 節 困ったときはヘルプラインへ	松本常務理事(BERC)
4 節 パワーハラスメント防止のマネジメント	星野邦夫
3 章 労使の絆とメンタルヘルス	
1 節 CSRと労使(経営層・従業員)の関係	蟻生俊夫
2 節 CSRコミュニケーションマネジメントによる信頼関係	井上昌美
3 節 残業時間とメンタルヘルス	小池裕子
4 章 未来をひらくワーク・ライフ・バランス	
1 節 高度成長時代の光と影	小池裕子
2 節 女性の社会進出と課題	桑山三恵子
3 節 新しい自己実現の提言	桑山三恵子
5 章 社員を支援する“やさしい”会社	
1 節 だれにもあるQOL(Quality of Life)と生き甲斐	大泉英隆
2 節 障がい者を支援する“やさしい”会社	山田雅穂
3 節 引きこもり、ニートの若者を生かす“やさしい”会社	高浦康有
6 章 多様な価値をまとめるマネジメント	
1 節 日本企業に求められるダイバーシティー経営(従業員モチベーションを向上するCSRのマネジメント)	吉田哲朗
2 節 サプライチェーンにおける多様性企業(Diverse enterprises)の活躍	上原 修
3 節 グローバル経営とダイバーシティー採用	シュレスタ・ブパール・マン
7 章 風通しの良い企業風土の醸成	
1 節 オープン・コミュニケーションの重要性	佐伯隆博
2 節 聞き上手、伝え上手がリーダーシップの前提	村松邦子
3 節 コミュニケーションを促進するオフィス・マネジメント	村松邦子
終章 安全・安心のリーダーシップ・イノベーション	
1 節 部下を支援する環境エンリッチメント	水尾順一
2 節 エンパワメント・リーダーによる経営革新	

以上